

全教

実教部NEWS

第130号

2023/6/1 発行

～第34回定期総会 オンライン開催のもと成功裏に～

どの子にもゆきとどいた 実験・実習教育の充実を



全教実習教員部は2月23日(木)第34回定期総会を、昨年と同じく新型コロナウイルス感染症対策として、ホテルサンバレー富士見(静岡県)を主会場にオンラインで開催し、2022年度の総括および2023年度運動方針を決定し、新役員を選出いたしました。



会場参加の総会役員のみなさん

魚住部長は、「本年度、岡山県において久々に参集型の全国学習交流集会開催となり、皆様と繋がること、繋がり続けること、繋がり直すことができました。私たちの絆を一層深めることができ、大変うれしく感謝しています。総会の開催についてもいただいた意見をもとに、未だ予断を許さない新型コロナウイルス感染症の状況や総会運営を考え、常任委員会で検討しオンライン開催とさせていただきます。



今、実習教員を取りまく環境では、これまで想像や想定していなかった事案が浮上し、教育活動に影響が出てきています。特に、ICTに関わる内容について『新たな職』ができつつあり、今後、実習教員の働き方や採用の在り方に大きな影響を受けると考えられます。

私たちは教育界において唯一定まらない、安定しない職務内容で働いていることを改めて感じています。今年度とりくんだ署名に書かれたコメントでは、皆様の揺らぐことない制度改革に対する思いに励まされます。実習教員部運動の根幹である制度改革は、日高教時代の最終報告から、20年が経とうとしています。これまで内実化を着実に進め、多くの組織から運動の進展が報告されてきました。しかし、実習教員の問題を全く知らない先生方や学校が増え、学校裁量や適材適所と都合よく扱われ「職務としておかしいのではないか」と物言えぬ実習教員の存在が多くみられるようになりました。実情という理想で働くのではなく、実態という現状を捉えなければなりません。『理想を追い求めれば現実とぶつかる』のです。制度改革という理想において、現実の教育環境や私たちの意識はどうか、現実や実態から見える理想はなにかを、みんなで考えなければなりません。皆様とともに、心を一つに、今一度踏み込んだ運動につながればと考えます」とあいさつしました。



全教中央執行副委員長の有馬さんのあいさつでは、全教第40回定期大会の運動方針を踏まえた重要な課題として、「今、職場は深刻な教職員未配置問題で、いっそう厳しい働き方を迫られています。教員を増やし、教職員のいのちと健康を守り、誰もが安心していきいきと働けるよう、改善をはかることが喫緊の課題です。全教が作成している「給特法リーフ」を活用して、職場・地域での学習・討議をすすめ、長時間過密労働の抜本的解消のために給特法改正に向けての運動を力強く踏み出していきます。

昨年12月に「安保3文書」が閣議決定され、日本は大軍拡・大增税をおしすすめ、戦争国家

としての道を突き進もうとしています。戦後憲法9条の下で、戦争放棄を掲げてきた国の形が、根底から覆されようとしています。また、防衛予算が国の方針通りに増やされれば、教育や福祉・医療などの予算が大きく削られことは必至です。国民のいのち・くらしがいっそう脅かされ、私たちの願うゆきとどいた教育の実現は遠のくばかりです。この危機感と怒りを共有し、多くの人々と共同を広げ、新たに提起された請願署名を大きく広げていくことが求められています。

この間おしすすめられてきた新自由主義的政策は、人間らしい生活を奪い、人間の尊厳を貶めてきたのではないのでしょうか。一人一人が大切にされる教育をめざし、子どもたちとともに平和な未来を築くために、一緒に声を上げていきましょう」と呼びかけました。

討論では延べ19本の発言がありました。

第1の討論の柱では「異動調査を提出しなければならないが、異動先の仕事の内容に不安を感じている」「実習教員は指導ができないのか?」「特別支援学校で勤務しており教諭と同じ仕事内容なのに、同僚の教諭から差別的発言をされ辛い思いをしている」など、現場からの発言がありました。



また、「コロナ禍においてICT教育が必要になって来たため、情報の免許状を持った実習教員の採用も見られるが、情報機器のメンテナンスを頼まれる事がある」というこれから注視していかなければならない報告もありました。

第2の討論の柱では「再任用時における教諭との賃金格差が生じている」との発言に「今年度の交渉で再任用2級格付けが実現した」など元気がもらえる報告がありました。

その反面、実習教員への端末未配布問題や「月90時間を超える時間外労働や考査監督も実習教員だからという理由で認められなかった」の発言、また「ICTについて、専門業者等に委託することを訴えている」ととりくみの報告がありました。さらに「月80時間程度の時間外勤務で土曜日等も部活動指導の後、実験器具の修理等のため、勤務せざるを得ない状況が生じている」「週休日の園場管理等は現在シルバー人材に委託している。シルバー人材を活用することで起きる問題をもとに、実習教員の仕事の必要性を訴えたい」など働き方改革の様子が報告されました。

第3の討論の柱では「障害者枠で採用された実習教員の先生が今、感じている困り感の解決について交渉で発言された」「職務の内実化について、自分は尽力してきた経過があるが、全国の先生方はどのようにとりくんでおられるのか」という発言や「実習教員同士の学習会で活発に交流しており、理科の教諭と同じように仕事をしている人もいて、個人ができることに差ができています。高校によって働き方、求められることがかなり違うため、自分がやりすぎてしまうと、異動で次の方に迷惑をかけてしまうとブレーキをかけてしまう人もいます。個人の思いと関係のないところで理科の実習教員のジレンマがある」などが報告されました。



参加代議員の討論を受けて、執行部見解として清水副部長より、「本日は19本の貴重な発言ありがとうございました。すべての発言内容が職務の内実化という永遠のテーマにつながっているのではないかと感じました。発言や報告された様々な問題が出てくるのは『実習助手』という制度であり、ここを教諭一元化に向けて運動していくことで差別化が解消されるのではないで

しょうか。来年度、教諭一元化に向けて私たちも委員会を立ち上げ運動を進めていきたいと考えており、みなさんからの貴重な意見をいただければと思っています。ICT関係では、支援員もメンテナンスにはなかなか手が回らなく、現場任せとなっています。メンテナンスを含めて支援員がおこなうという要求を本部とともに協力しながら要求していただければならないと感じました。県交渉で2級の再任用を勝ち取ったという元気の出る話もありました。他府県との横のつな

がりを生かして、『ぜひうちの県でも勝ち取るぞ』という動きを作れたらと思います。さらに、各専門部との横のつながりも生かして、どんどんと勝ち取れる部分を増やしていければと考えています。討論の中では、各県の活動も紹介され、組織拡大では、『なかなか加入につながらず、やはり何か行動を起こさなければ加入にはつながっていかない』、各組織の状況も参考にし、各自の組織でも活用していただければと思います。また、さまざまなエビデンスを集めて交渉に臨み、それが結果につながったという成果が討論の中で報告されていました。各道府県の交渉や文部科学省への要請行動に生かすため、定期総会での意見交流や署名の「ひとこと」欄を集約し、今後の実習教員部運動に活用していきたいと思います」との総括がありました。執行部から提案された第1号議案から第4号議案まで、いずれも満場一致で採択されました。最後に定期総会アピールでは、「私たち全教実習教員部は、長年にわたり全国各地の仲間と連帯した運動で、職名・呼称問題での前進や、1級・2級賃金の改善など、さまざまな要求の実現に向けて奮闘し、多くの待遇改善を実現してきました。みなさん、これまで積み重ねてきた運動に自信と確信をもち、あらゆる分野での国民的な共同と発展をすすめ、憲法を守りいかし、どの子にもゆきとどいた実験・実習教育の充実と保障がなされるよう全力を尽くしましょう」と提案し、大きな拍手で採択され総会が終了しました。

オンライン総会の成功に向け、オンライン及び会場までお越しいただいた議長団など総会役員の皆様、またスムーズな進行にご協力いただいた総会代議員の皆様へ深く感謝申し上げます。



発言の機会をいただき、現状をお話しさせていただきありがとうございました。悩んでいたことが、他県の先生方もおもわれているということ、長年の課題になっていることが改めて知りました。議長の先生の「これからも手を携えていきましょう」と言ってくださって、力がわきました。

討論時間もきっちりとしていただき、他県の取り組みや問題、交渉の成果などを共有できたのがよかった。

参加代議員の
主な感想

実習教職員は業務が明確になっておらず様々な問題があると感じた。

実習教員は、実験実習において、教諭の職務を助けるということが、今回、よく理解できました。それ以外では、職務内容に制限がないんだとわかりました。

職務内容の検討をはじめとして、実習教員にとってどのような働き方が良いのかについては、これから学習/検討していかなければならない課題です。

**** 総会に現地参加された役員さんの感想 ****

◆ 組合の会議に出席する時は、わざわざ時間を割いて行くのだから、何か一つ自分に役立つものを得て帰ろうと常々思っています。今回は、執行部役員の方々の総会を成立させるための大変なご苦労を垣間見ることが出来たことと各地から来た方々とのよもやま話でした。雑談は、微笑ましい思い出になりました。

何年前かの総会で、今後の人生設計に影響する情報を得たことがあります。年金が改悪される中での『44 年特例法』です。みごとにこれに該当して、64 歳で年金が満額出ることが分かり、来年3月で一旦退職することを考えることが出来ました。残り1年間お世話になった組合に恩を返すつもりで頑張ります。

◆ なかなか、こういう現場を体感することはないことだと思いますが、まず皆さんの一所懸命な姿勢が総会を成功させていると思いました。小さな機器のトラブルでも解消しようとしているし、立ち位置まで気を配ったりハースル。最後に明日よろしくお願ひしますと何度も口にして、物理的な準備もそうですが、スタッフの方への配慮も素晴らしいと感じました。

当日でも緊張感を保ちつつも、リラックスした様子で展開していく雰囲気。また、参加されている方々の品のある言動などで、終わりまでスムーズにエスコート、申し分ありません。よくある話で安っぽく聞こえてしまっていますが、ほんとにスタッフ一丸となって成功へ導く姿勢には感服です。

こんな裏方の準備もインスタライブで配信して、全国の実教部に見ていただきたいと思うくらいでした。

◆ オンラインによる選挙管理委員会や開票作業などがありました。本部役員の方々の細やかな気配りにより困ることがなく、非常によい経験となりました。また、機会がありましたらよろしくお願ひいたします。



定期総会の配信風景

2023 年度 全教実習教員部 ◆◆常任委員会あいさつ◆◆

2023 年度全教実習教員部常任委員が決定しました。昨年度は、新しくオンライン学習交流会を、そして全国学習交流集会を久しぶりに全国の仲間が集い開催することができました。ご協力ありがとうございました。

2023 年度の役員に、新しい方々をお迎えし、様々な課題にとりくみ、パワフルに実習教員部運動をすすめていきたいと考えていますので、皆様どうぞよろしくお願ひします。



常任委員・菅谷裕輔さん 副部長・清水正貴さん
事務局次長・安藤秀明さん 担当中執・有馬理江子さん
お疲れさまでした

◎総会で選出された新役員

部 長 魚住 知一 (山口高)
副 部 長 金坂 雅人 (富山高)
副 部 長 濱村 一代 (長崎高)
事務局 長 佐多美也子 (大阪高)
事務局 次長 横瀬 健司 (茨城高)
.....
担当執行委員 高木 りつ
担当書記 寺浦 勝美

常任委員 吉田 等 (愛知高)
常任委員 松本 浩 (滋賀高)
常任委員 藤元 広明 (岡山高)
常任委員 山根 裕生 (岡山高)



皆様、よろしくお願ひします

☆☆ 全教定期大会の報告と発言 魚住部長 ☆☆

全教第40回定期大会が2月18日～19日の2日間、参集とオンラインの併用で開催されました。大会では「2022年度たたかいの経過と総括」をはじめ「2023年度運動方針及びスローガン」などの議案が採択されました。

実習教員部からは「ICT教育と実習教員問題」として、ICT教育の推進に伴う、実験・実習教育の後退の恐れ、五感を使うことでリアルを学べる実験・実習の重要性やその効果、メディアに頼るのではなく上手に活用すること、そして、実習教員の職の問題として、ICT機器の管理といった新たな職や雇用に対し、障害者雇用の一極集中化している点などを報告しました。また、実教部が掲げる「制度改革」のとりくみについてはこれからの時代や教育環境を踏まえ、実情ではなく実態に即したとりくみを考えていくことを提言しました。



◆ オンライン学習交流会 ◆

昨年度初めて開催したオンライン交流会を今年度も開催します！

全国の実習教員はもちろん、小学校や中学校の先生方、様々な職種の方、世代や校種や職種を超えて、日頃の学校での疑問・質問、そして実習教員のことなど、ざっくばらんに話して楽しく交流しませんか？



日時：2023年7月1日（土）16時～18時
 実施方法：完全オンライン
 開催案内：5月10日（水）【全教専発23-034】
 問い合わせ先：各組織（実習教員部）

第 34 回定期総会アピール

職場を基礎に、憲法を守りいかすとりくみをすすめ、 どの子にもゆきとどいた実験・実習教育の充実を

全教実習教員部第 34 回定期総会は、どの子にもゆきとどいた実験・実習教育の充実と、実習教員の待遇改善を求めて 19 組織・19 名参加のもと、オンラインにて本日ここに開催されました。

世界ではロシアのウクライナ侵攻、中国、北朝鮮の活発な軍事行動などとても不安定な情勢が続いています。一方国内では、「コロナ禍」は 3 年目となり、昨年より始まったワクチン接種により徐々に行動制限のない平常時を取り戻そうとしています。未だ終息の目処がたちません。また、政府による政策によりここ 30 年間実質賃金が上がらず、増税や値上げにより生活が大変苦しくなっています。このような殺伐とした社会情勢の中、学校が本来あるべき姿についてもう一度教員間で協同し、子どもたちの思いに向き合い、ていねいに声を聴き、教育について子どもたち・保護者・地域の方々と共に語り合い、知恵を出し合うことが求められています。

2022 年 10 月 8 日に開催された第 30 回全国学習交流集会は、各組織の違いを超えて全国から 22 組織 52 名が参加し、3 年ぶりに参集型でおこなわれました。全体会では、備前焼体験を通し改めて子どもたちの目線を学ぶことが出来ました。分科会では、私たち実習教員は専門職として日々奮闘し、安全面や実験・実習について様々な工夫を凝らし子どもたちの成長を支えている様子や、統廃合の問題や日頃職場で抱えている諸問題などについて交流しました。

政治の世界に目を向けると、2022 年第 26 回参議院選挙の応援演説中に安倍晋三元総理が銃撃され亡くなりました。どんな理由があろうと言論を暴力で踏みつける行為は絶対に許されません。参議院選挙では自民、公明の与党が 146 議席となり、改憲派が議席のほとんどを占めることとなりました。岸田内閣が発足し 1 年以上がたち、安倍元総理の国葬問題、旧統一教会の対応、大臣の不祥事、防衛力強化の増税案などの不誠実さにより内閣支持率が急降下しています。追い打ちをかけるように急激な円安や物価上昇、生活に必要なライフラインの大幅な値上げなど、国民は困窮し助けを求めているのに岸田内閣は、一向に国民目線の政治を実現することができていません。このような時こそ民意を結集し、改憲を許さず、憲法を守りいかそうと声をあげる幅広い運動が求められています。

第 34 回定期総会では「1. 子どもたちの現状と、実験・実習教育の充実に向けたとりくみ」「2. 賃金・生活・権利のとりくみ」「3. 組織拡大強化・実習教員部運動のとりくみ」を討論の柱に据え、参加代議員からは「コロナ禍における実験・実習教育と実習教員への影響」「昇給停止や再任用賃金を含めた、実習教員の賃金改善に向けたとりくみ」「実習教員に向けられる様々な攻撃に対すとりくみ」を中心に多数の発言がなされ、旺盛な討論が交わされました。全教実習教員部に集う全国のみなさん、今総会で決定された 2023 年度運動方針に則り、学校種別・教科の垣根をこえた連帯によって成し遂げられる私たちの運動の到達点をめざし一丸となって共にがんばりましょう。

【全国の実習教員のみなさん】

私たち全教実習教員部は、長年にわたり全国各地の仲間と連帯した運動で、職名・呼称問題での前進や、1 級・2 級賃金の改善など、さまざまな要求の実現に向けて奮闘し多くの待遇改善を実現してきました。

みなさん、これまで積み重ねてきた運動に自信と確信をもち、あらゆる分野での国民的な共同と発展をすすめ、憲法を守りいかし、どの子にもゆきとどいた実験・実習教育の充実と保障がなされるよう全力を尽くしましょう。

2023 年 2 月 23 日 全日本教職員組合 実習教員部第 34 回定期総会